類塾の
探求講座

大人と子どもが切磋琢磨する　特別講座〝実現塾〟を取材しました

社会と世界の現実を見極めるちからを育てる

昨年11月からスタートした類塾の「探求講座」。すでに700人を超える受講生が追求力を磨いています。その特別講座で、大人も子どもも同じ土俵で議論する「実現塾」に注目。類塾ブロック長・教室長の新里勝一郎さんに話を聞きました。

小学生～社会人の混合小グループで討論

「探求講座は、つめ込み型の近代教育によって、意欲や追求心を封鎖されてしまった子どもたちのために考案した、全く新しい講座です」と話すのは、類塾ブロック長・教室長の新里勝一郎さん。自身も、自らの認識を深めるために、実現塾に参加しています。

「15教科を超える現実的な課題を仲間と追求することで、これからの社会を生き抜く力を身につけます。平素は各教室でグループ追求を行いますが、社会経験がほとんどない子どもたちだけでは追求のレベルに限界があるため、特別講座として、類グループが運営する〝実現塾〟に出席します」

実現塾は、社会状況やその背景にある社会の構造、意識の移り変わりなどを追求していく場。スカイプも利用しながら、全国から、小・中・高・大学生や社会人が参加。メインは、最大250人が一堂に会して、その日のテーマを追求する「劇場会議」ですが、その前に毎回30分～1時間程度、疑問点や追求したいポイントを定める、グループ追求を行います。

「社会構造の解明」をテーマに議論

取材日のテーマは〝社会構造の解明〟。「勉強を強制されると、なぜやる気が出ないのか、子どもたちも日ごろ感じている感覚を手がかりに、強制的な圧力に代わるものは何かを追求します」と新里さん。ここでは、「人の役に立ちたいという志ではないか」という可能性が提起されました。

壮大なテーマを前に、あるグループでは「AI（人工知能）が進化していく中で、人間だからこそできることは何か」、別のグループでは「企業のために働くことと、社会のために役立つことは一致するか」など、多彩な切り口で話し合いが行われていました。子どもたちの社会への関心の高さと意識の高さ、それを発信する力があることに驚かされました。

劇場会議

実現塾のクライマックスは、大会議室での〝劇場会議〟。参加者はマイクを通じて意見を交し合い、それぞれの意見に真剣に耳を傾けていました

▼劇場会議で発言する新里さん

◀劇場会議の総合司会を務める、類グループ代表取締役社長の岡田淳三郎さん

「劇場会議」で意欲的に発言し合う

劇場会議は、類グループ代表取締役社長の岡田淳三郎さんが自ら議長を務めます。

子どもたちに、「大人の会議では、議論を前進させる発言でなければ意味がない。この会議は大人の次元で運営します」と宣言する岡田さん。「人の役に立つためには、まず期待をつかまなければならない」ことを前提に、人間の意識構造を解明するため、人類の進化過程から現代の社会構造まで、妥協のない議論が展開されます。子どもたちは周りの大人の力を借りながら、懸命に参加。中には果敢に発言する子どももいました。

劇場会議後は再びグループに分かれ、30分程度でその日の内容をフィードバック。特別講座に参加した子どもたちは、毎回、「うまく言葉にできない現状に言語能力の欠乏を感じた。自分に足りていない、そしてこれから身につけたいものを明確にできた」「勉強への意欲が変わった。大切なのは、自分はどんな人間になりたいかにつながる勉強だととらえることができた」などとさまざまな気づきを得て、各教室での取り組みにも生かしていくそうです。

子どもたちの意欲と能力を解放したい

「現代社会では、いまだにレベルの高い学校に行くことが幸せな生活につながるという幻想があります」と新里さん。「そこで親も学校も、点数を取るための勉強を子どもたちに強制するのですが、今、教育に求められているのは、むしろそんな強制的な圧力によって封じ込められた子どもたちの意欲と能力を解放することです」と話します。

「子どもたちには、年齢や立場を超えて、子どもたち自身で学び合う場が何より貴重であり、そうして社会を生き抜く力が身につけば、実は学力などは簡単についてくるのです」

追求型学習の「本科」「探求講座・実現塾」を通じて、類塾の挑戦は続きます。

グループ追求

実現塾のスタートは、小学生から大人までが一緒にテーブルを囲む、グループ追求。活発な討論が展開されていました

保護者に聞きました

類塾に通う子ども（中3、小6、小4）の保護者　中井敬子さん

マイペースでのびのびと塾に通っています

類塾には、長男（中3）、次男（小6）、長女（小4）の3人が通っています。子どもにとって「○×方式ではなく一番大切なのは自分で考えること」「人間的にのびのびと育ってほしい」と常々思っていましたので、たくさんある塾の中からここに決めました。先生方がとてもフレンドリーで、自分の言葉で発信されているのもいいですね。

3人とも成績はグンと上がりました。長男は間もなく受験ですが、あせることなく、マイペースで勉強を続けています。塾へ行くのが本当に楽しいようで、体調が悪くて学校を休んだ日も、夕方になって回復すると塾へ向かっていました（笑）。

親子で〝実現塾〟に参加しことも。大人に交じってさまざまな話ができる貴重な機会だと思います。家に帰ってからも、子どもたちそれぞれが考えたこと、思ったことを楽しそうに報告してくれました。先生方にはこれからも難しいことをおもしろく、子どもたちに伝えていただければと思います。

探求講座について聞きました

類塾では、実現塾のスタイルを各教室で実施する「探求講座」を開講しています。1、2カ月に1度は実現塾にも参加します。樟葉教室（枚方市楠葉朝日2-3-10、京阪くずはプラザ2階・3階）の塾生で、冬期の探求講座に参加し、見事志望校に合格した浜辺陽翔（ひかる）くんに聞きました。

類塾樟葉教室・小6生クラス　浜辺陽翔くん

どんな問題が出ても〝できる〟自信が持てました

夏休みが終わったころに志望校を洛北中学校に絞り、本格的に受験勉強を始めました。でも冬休み直前に、教科書で勉強している教科学習が、入試に必要な力に直結しないように感じたんです。何か新しいことをしてみたい、と思い、類塾の冬期講習で探求講座を受講しました。

印象的だったのは、少年漫画雑誌の編集長になったとしたら、今の雑誌の問題点は何かや、どうすれば部数が伸びるだろうかを考えたこと。普段は友達同士でマンガを話題にすることはあまりないこともあって、みんなの自由な考え方に触れ、新しい考えが見えてきました。受験準備が遅く、同じ問題を繰り返し解く受験勉強は僕には無理だと思っていました。それよりも、探求講座で、いろいろな考え方ができれば、どんな問題が出ても対処できることがわかり、これからの勉強法をつかめたことが大きかったし、自信になりました。